

会議録（要点記録）

会議名称	令和4年度 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会 部会		
開催日時	令和4年6月1日（水） 14:00～15:00		
開催場所	ZOOM を使用し、オンラインで開催		
出席者等	委員：小椋委員、鈴木委員、佐々木委員、東郷委員、杉山委員（欠席）、藤原委員（欠席） その他：小金井市障害者地域自立生活支援センター職員1名 事務局：自立生活支援課長、相談支援係長、相談支援係主事		
傍聴の可否	不可	傍聴者数	—
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 長期入院患者アンケート調査の実施について (2) 各事業所から情報共有・意見交換 (3) 今後のスケジュールについて (4) その他 3 閉会		
会議結果	1 開会 各出席者自己紹介。 2 議題 (1) 長期入院患者アンケート調査の実施について ・前回の小金井市精神保健福祉連絡協議会で実施することとしたアンケート調査の実施について報告した。 ・40病院に発送し、うち30病院から返送あり。返送された病院に対象の小金井市民が入院している病院が19病院、人数が106名。入院理由の主要な疾病の内訳として、統合失調症が60名、認知症が10名、うつ病が7名となっている。 ・返送されていない病院については引き続き返送をお願いしていく。 ・7月28日に令和4年度 第1回小金井市精神保健福祉連絡協議会を開催する予定。 ・協議会に調査結果を提示する必要があるため、本日（令和4年6月1日）に返送があった病院のうち、小金井市民が入院しており、調査に協力いただける見込みのある医療機関に入院者向けのアンケートを送付する。 （出席者より質問、意見） ・第二弾のアンケートは入院患者用で間違いないか。 ⇒お見込みのとおり。 ・第二弾のアンケートの結果で入院患者のリアルな意見が聞けるので重要である。		

(2) 各事業所から情報共有・意見交換

・基幹相談支援センターの人員が大幅に変わった。精神障害の方の支援事例が少ないため、今後関係機関の支援に同行等を行い連携していきたい。また、今日出席された関係機関の方々の現況や意見についても確認させてほしい。

・以前、過去に開催されたいわゆる「6者協、7者協」と呼ばれているものには参加したことがなく、小金井市精神保健福祉連絡協議会の部会となってから参加した。退院促進、地域移行を事業所として取り組んできたが、新型コロナウイルス感染症の影響で病院からの退院要請が止まった時期があった。現在市外の障害福祉サービス利用者を含め3人くらい地域移行に取り組んでいる。引き続き関係者で連携して長期入院者の地域移行を継続していきたい。各機関がどのような形で支援に関われるのか確認していきたい。地域移行は病院のみでは対応困難なケースも多い。基幹相談支援センターなら何ができるか、ある関係機関が抱え込むようなことがないようにしていけるとよいと考えている。

・「6者協、7者協」から参加しているが、小金井市精神保健福祉連絡協議会の部会となってから、会議の雰囲気が変わったと思う。過去は各事業所の困りごとやケースの相談に関する議題が主で、それにプラスして退院促進や地域移行が課題となったと感じている。基幹相談支援センターが人事異動等でなかなか難しい状況と聞いており、利用者から不安の声を聞いている。今後は実際に会って情報交換するなどの対応をしていきたい。就労支援センターとしては、前年度と変わらず3人体制で支援を行っていく。庁内実習、就労定着支援を担当していく。前年度と変更する点としては「どのような広場」という知的障害のある方を対象とした余暇活動を再開した。5月28日に14名が参加した。9月に遠足、10月に学習会を予定している。7月には就労支援連絡会を予定しているので声かけをしていく。

・幼児のお子さんの利用が多い事業所で、学齢で定期的な利用は小学生対象の放課後等デイサービス、相談では中学生や高校生の利用者もいる。年度当初という事情もあるが、今年度は放課後デイサービス関係の動きが活発で、例えば、当初申し込みをしたが学校との関係でうまくいかなかった事業所を変えるとか、利用を控えるとかなど。通所先は選べるほどなく、親が通所先を「確保」するような動きとなってしまい、そもそもの利用の意義について考えてしまうことがある。

(困難ケースの報告について)

・以前の「6者協」で何度も提案していた40歳女性のケースについての報告

関係者では入院対応と考えていたが、医師より入院を拒否されたケース。支援について関係機関でも頭を抱えていたが、その後通院先を

変更し、配食サービス、訪問看護の利用を開始した。対象者は人との
かかわりが苦手だったが、支援者との関係を構築できた。市内の生活
支援事業所に支援要請をしたが、すでに別の計画相談事業所が介入し
ていたため断られた。就労支援センターの所管外ではあるとは考えた
が、対象者が地域で生活するためにも引き続き対応した。就労生活支
援B型にも断れたこともあり、通院先のデイケアに通えるよう調整し
ている。福祉サービスや権利擁護の利用に繋がったことで少しずつ安
定してきているが、対象者が一人で生活していくのは困難であるため、
できれば市内の計画相談事業所に介入してほしい。

⇒対象者は配食サービスを決定しているが、すでに2回受け取れてい
ないなど、引き続き支援が必要なケースであるため関係機関で関わっ
ていきたい。

・40歳代男性のケースについて

市外の就労継続支援B型に通所している。両親と兄と同居。兄も精
神疾患があり入院歴はないが遠方の病院に通院している家庭。年明け
から兄の状態が良くない。対象者、家族に対し手が出る。市と自立生
活支援センターと連携している。その後兄は3か月入院し退院したが
病院はデイケア等が必要であると考えている。対象者が通所する就労
継続支援B型の職員からの同様の助言を受けている。現行では対象者
の支援者が兄に関わることで、同一の支援者が双方に係ることは福祉
支援の観点から一般的に望ましくない（支援対象者双方の意見対立が
あった場合、福祉支援者の立場が不鮮明になるため）。今回のように兄
に新たに支援が必要となった場合、市が窓口になるのか、保健所が担
当なのか不明であるため市に相談したがよかったか。

⇒市に相談していただくことで問題ない。ちなみに本ケースは市がす
でに関与している。家族を切り口に支援を行っていく予定。今後連携
していく。

・60歳代男性 うつ病 ペット（犬 17歳 高齢で介護が必要）
がいる。入院したいが困っている。ペットホテル、知人以外に支援方
法があるか。

⇒1件だけ入院先がペットの面倒を見てくれたところがある。

⇒動物病院にかかっているならば、そちらで対応してもらえるケースもあ
るのではないか。

・最近、障がいのある児童の相談を受けていると「ひきこもり」では
なくても不登校の方が多く印象がある。そのような方はなかなか事業
所まで来るとかは難しく、対応に苦慮することがある。対応方法の一
つとして児童の支援としてあまり使ったことがないが訪問看護の利用
が話題になる。ただ、我々事業所側が利用のコツがわかっていないこ
とや、つながりのある事業所が少ない。この出席者の方々が訪問看護
の事業所と情報交換する際に、子供にもニーズがあることを伝えてほ

	<p>しい。</p> <p>(出席者より質問、意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席者の取りあつかいはどうなるのか。構成員の代理出席は可能か。 <p>⇒現在は小金井市精神保健福祉連絡協議会の部会という扱いとなり、要綱上構成員は必ず出席いただくこととなっている。そのうえで必要に応じて構成員プラスαで出席いただくことも可能という取り扱いである。ただし代理出席の取り扱いはできないので、構成員が出席できない場合は、構成員自体は欠席であるが所属機関の職員がプラスαでの参加する取扱いとさせていただくこととなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧6者協議会はなくなったのか。 <p>⇒「なくなった」のではなく、名前へ変えて部会としての位置付けとした。旧6者協議会で話していた内容については変わらず情報交換の場でお話しいただきたい。</p> <p>(3) 今後のスケジュールについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会 第1回 令和4年7月28日 13時～ 第2回 令和4年11月 ・部会 第2回 令和4年8月31日 14時～ 第3回 令和4年10月5日 14時～ 第4回 令和5年1月11日 14時～ <p>(4) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>3 閉会</p>
提出資料	なし